

東京ヴェルディと地域との関わりについて

教育学部 総合人間形成過程 地域公共領域

3年 高橋直裕

1、 Jリーグ初代王者 東京ヴェルディ

私は小学校 3 年生から現在に至るまで、サッカーという競技を続けてきた。小学校、中学校、高校では競技者という立場で個人、チームとしての向上を目標にひたすらトレーニングできるという、ただ純粋にサッカーを頑張るという環境にいたため、チーム登録や選手登録、グラウンドの確保などの裏方の作業などは監督やチームスタッフに任せていた。しかし、大学のサッカー部に入部し、いざ活動してみると部員全員でチーム運営をしていかななくてはならないというのが現実だった。そして、現在は執行部という立場であるため大会の会議に参加したりしている。ただ単にサッカーの大会を行うといっても、様々な方々の協力があり、好きなサッカーができるということを知ることができたため、そこで、プロのサッカーはどのように運営しているのか、地域との連携などはどのように行われているのかということに興味を抱いた。私は中学校の時に学校の部活ではなくクラブチームに所属していて、そのクラブチームが J リーグの初代王者である東京ヴェルディというチームの下部組織であったということもあり、東京ヴェルディと地域との関係について知りたいと思い、このテーマを設定した。この論文では東京ヴェルディの地域活動・ホームタウン活動の理念や、サッカースクールの現状や問題点、そして実際に東京ヴェルディはどのような地域活動を行っているのか等を記していきたいと思う。

2、 東京ヴェルディの地域活動・ホームタウン活動の理念

東京ヴェルディは、ホームタウン「東京」のスポーツ普及振興、街づくりのため様々な活動にあらゆる形で参加している。その内容としては、サッカースクールの開講やイベントのコーチ、選手派遣、福祉施設への訪問、地域や商店街のお祭りへの参加などが挙げられる。活動を通して地域活性、そして青少年の健全育成へ貢献することを目指しており、現在ではこのような活動を年間 200 回以上行うことで、ホームタウン東京との関係をより密接なものとしている。

3、 サッカースクールの現状

東京ヴェルディのサッカースクールは幼稚園生から小学 6 年生まで、サッカーの技術に関係なく参加できるサッカー教室である。サッカースクールのコーチは元プロサッカー選手であるため、子供たちにとってはこれ以上ない環境でサッカーを楽しむことができ、技術の向上を含めトレーニングに励むことができる。また、同じ学校ではない選手も当然参加するため、様々な学校や学年の選手と関わることができ、現代の日本で重要視されているコミュニケーション能力を養うことができると考えられる。

東京ヴェルディのサッカースクールは本拠地であり、東京都稲城市と神奈川県川崎市多摩区にまたがる場所にあるよみうりランドの他に、栃木県、岩手県、東京都、神奈川県、静岡県のような場所で行われている。育成ビジョンとしては「日本初のプロを目指すチーム」を掲げており、男子は J リーグディビジョン 1 所属の東京ヴェルディを頂点にユース（高校生）、ジュニアユース（中学生）、ジュニア（小学生）、スクール（幼稚園生～小学 6 年生）とピラミッド型のような育成組織を編成している。この育成ビジョンから東京ヴェルディはもちろん、将来日本を代表する選手や世界でも活躍できる選手を輩出していくことを視野に入れ、東京ヴェルディはこのシステムを築いているのだⁱⁱ。

私が通っていた東京ヴェルディ公認支部、ヴェルディサッカースクール小山は、個人の成長に合わせた指導による少年少女の健全な育成を図り、生涯スポーツとなるサッカーの魅力、楽しさを伝え、サッカーの普及と地域スポーツ文化に寄与する事、そして個性的なサッカープレイヤー、世界に通用するプロフェッショナルな選手育成することを目的とし、スクール理念として掲げているⁱⁱⁱ。

4、 サッカースクールの問題点

私がコーチをしていたヴェルディ小山のサッカースクールは鹿沼市にある自然の森総合公園の人工芝のグラウンドをはじめ、小山市にある白鷗大学のグラウンドや宇都宮市宝木町のグラウンドなど様々なグラウンドで行われている。コーチをしていた当時は、いかに子供たちにサッカーというスポーツを楽しんでもらえるかということを考えていたため、スクールの問題点などには着目していなかった。そこでサッカースクールの責任者であり、東京ヴェルディや京都サンガ F.C で元プロサッカー選手であった近藤健氏にサッカースクールの問題点についてインタビューしてみた。

まず、問題点として挙げられたのは練習場の確保だった。日本では静岡県や埼玉県がサッカー王国と呼ばれていて、人工芝や天然芝のグラウンドがたくさん存在し、よりよい環境の中でサッカーが行われている。それと関係があるかは分からないが静岡県や埼玉県が

ら多くのプロサッカー選手が輩出されているのは事実だ。近藤健氏は子供たちにとって良いグラウンドでサッカーをすることが技術の向上をはじめ、サッカー自体を好きになってくれる要素だと言っている^{iv}。私も同じ考えを持ってはいるが、ではグラウンドを良くするだけで本当にプロのサッカー選手（栃木県出身）は増えるのであろうか。ブラジルという国を例に挙げてみると、現在は改善されてきていると思うが、芝のグラウンドどころか土のグラウンドさえ確保できず、アスファルトの上で裸足でサッカーを行っている。いわゆるストリートサッカーだ。しかし、そのような環境の中でもブラジルはワールドカップで何回も優勝し、世界で活躍しているサッカープレーヤーを数多く輩出している。身体能力などの生まれ持った才能の違いはあるにしても、環境がサッカーの全ての要因ではないと私は考える。ただ栃木県には人工芝や天然芝のグラウンドが少なく、土の上でしかサッカーをしたことのない子供たちは数多く存在する。将来のためにも、芝のグラウンドでいかにサッカーを体験してもらうかは検討していかなくてはならないことであろう。

そしてもう1つ、近藤健氏が問題点に挙げられたのはサッカースクールという制度自体のことだ。サッカースクールとは誰でもお金を払えば技術や性別に関係なく参加できるが、もっと身近に少年サッカー（学校の部活）があるという現状でどうしてお金をかけてまでわざわざサッカースクールに通うのか。それは指導者不足と大きく関わっている。大抵少年サッカーでは、昔サッカーを経験したことのある、選手の保護者が指導をしていることが多い。だが、本当にそれで良い選手は育つのか。やはり小学生から中学生までのゴールデンエイジの期間にしっかりとした指導を受けるということはとても大切なことであると考えられる。だから元プロサッカー選手が指導してくれるサッカースクールにお金を払ってまで通わせているのではないか。だがそれは、子供の問題ではなく我々大人の問題であり、そして日本サッカー界の問題なのだと私は思う。サッカースクールを卒業した子供たちが将来、指導者のライセンスを取得して適切な指導を行うことができれば、日本のサッカー界はもっとレベルの高いものになっていくだろう。

4、 東京ヴェルディと地域との関わり

東京ヴェルディは日本を代表する選手や世界に通用するプロフェッショナルな選手を育成する組織を目指していると述べたが、このように直接サッカーに関わる活動の他にホームタウン「東京」の発展のためにあらゆる地域活動を行っている。はじめに記したが、東京ヴェルディはその地域活動（ホームタウン活動）の理念として、「ホームタウンのスポーツ普及振興、街づくりのため様々な活動にあらゆる形で参加しています。イベントへのコーチ・選手派遣、福祉施設への訪問、地域や商店街のお祭りへの参加とその活動は多岐に

わたります。活動を通して地域活性、そして青少年の健全育成へ貢献することを目指しています。」と掲げており、現在ではこのような活動を年間 200 回以上行うことで、ホームタウン東京との関係をより密接なものとしている。このようにサッカーだけでなく、地域活動を行うことによって、東京を活性化させると共にサポーターの数も増えてホーム、アウェイの試合に関係なくスタジアムの観客動員数を増やすことにつながるだろう。Jリーグディビジョン1を目指している東京ヴェルディにとってはサポーターの増加は必要不可欠だ。逆にファンにとってもプロサッカー選手と直接触れ合える貴重な機会になるであろう。現在 J リーグディビジョン2で首位という好成績を残している東京ヴェルディだからこそ、これからも積極的に地域活動に参加して連携を増やして、サポーターの数を増やして欲しいと考える。

i 東京ヴェルディ HP 「ホーム活動の理念」
(2012年7月現在) <http://www.verdy.co.jp/hometown/philosophy/>

ii 東京ヴェルディ HP 「育成ビジョン」
(2012年7月現在) <http://www.verdy.co.jp/rearing/rearingvision/>

iii ウイングス鹿沼 HP 「ヴェルディサッカースクール小山・宇都宮校スクール理念」
(2012年7月現在) <http://www.wings-kanuma.com/information.html>

iv 2012年6月におけるウイングス鹿沼 SC (東京ヴェルディ鹿沼支部) 代表、近藤健氏とのインタビューより